

学校心理士 SV 申請に必要な研究業績

研究業績として認められるものは以下の「学校心理学」の領域に該当するものが基本条件です。

学校心理学, 教授・学習心理学, 発達心理学, 臨床心理学, 心理教育的アセスメント,
学校カウンセリング・コンサルテーション, 特別支援教育, 生徒指導・教育相談, キャリア教育

類型A

「学校心理学に関する研究業績一覧」(ダウンロードしたフォーマットを使用し, 5編以上の学校心理士資格取得後の執筆を含む10編以上20編程度を記載) <添付書類>各研究業績の表紙・目次・奥付のコピー

類型B

「学校心理学に関する研究業績一覧」(ダウンロードしたフォーマットを使用し, 2編以上の学校心理士資格取得後の執筆を含む2編以上を記載) <添付書類>各研究業績の表紙・目次・奥付のコピー

■「学校心理学に関する研究業績一覧」作成上の注意点

- 審査によって, 研究業績とは認められないことがありますので, 業績数に余裕をもって提出してください。(研究業績と認められないものの例: 単なる書評・実践報告・学会等の発表論文要旨等)
- 研究業績一覧はフォーマットをダウンロードして使用すること。
フォーマットに従っていない場合は, 審査の対象外となることがありますので, ご注意下さい。
- 著書, 論文は通し番号をつけること。
- 各研究業績については, 表紙・目次・奥付のコピーを添付すること。(添付できない業績は記載しない)
申請者氏名の入っている部分のコピーは必須。抜き刷りのコピーは不可。申請者氏名を赤で囲む。
- コピーは, A4判片面とし, 右肩には「学校心理学に関する研究業績一覧」に記載した通し番号を記入すること。目次等で, 枚数が多くなる場合は, 2枚を1枚にまとめてコピーしても可。
「学校心理学に関する研究業績一覧」を一番上に置き, コピーを通し番号順に並べて, クリップ等でまとめて提出すること。(ホチキス不可)

※研究業績により, 記載する事項が違います。下記を確認して記載してください。

【著書】

- ・ ISBN(国際標準図書番号)があるものを対象とする。コピーの ISBN 番号を赤で囲む。
- ・ 書籍名, 単著共著の別, 発行又は発表の年月, 出版社名 (あるいは発行者名), 著者名, 総頁数 (あるいは執筆頁数), 領域, 概要 (各 150 ~ 200 字程度) を明記。
- ・ 分担執筆の場合は執筆章, 編者名, 執筆頁数も明記。

【学術論文】

- ・ 学会等の機関誌, 大学・研究所等の紀要に掲載された論文を対象とする。
小学校・中学校・高等学校等の紀要は対象外
- ・ 修士論文・博士論文については, それが書籍等になって出版されている場合のみ可。
- ・ 学術論文名, 単著共著の別, 発行又は発表の年月, 発行雑誌名, 発行者名, 著者名, 掲載頁数, 領域, 概要 (各 150 ~ 200 字程度) を明記。
- ・ 著者名のうち申請者名には下線を付すこと。
- ・ 抜き刷りのコピーは不可。本体の表紙・目次・奥付のコピーを添付のこと。
ただし, 学術会議登録学会の機関誌等については, 抜刷本体でそれに代えることができる。

【その他】

- ・ 学会や大学等の研究機関ではなく, 出版社等が発行している ISSN(国際標準逐次刊行物番号)がある雑誌等に掲載されたもの。コピーの ISSN 番号を赤で囲む。「月刊学校教育相談」等の雑誌については, ISSN 番号はありませんが, 掲載本数により研究業績と認められる場合があります。
- ・ 書籍名, 単著共著の別, 発行又は発表の年月, 出版社名 (あるいは発行者名), 著者名, 総頁数 (あるいは執筆頁数), 領域, 概要 (各 150 ~ 200 字程度) を明記。
- ・ 分担執筆の場合は執筆章, 編者名, 執筆頁数も明記。

「領域」(研究業績一覧の一番右の欄)には, 以下から選択してその記号を記入してください

- a) 学校心理学 b) 教授・学習心理学 c) 発達心理学 d) 臨床心理学 e) 心理教育的アセスメント

記入例

SV 類型 (A)・B)

*申請する類型を○で囲んで下さい

*受付番号

学校心理学に関する研究業績一覧

2017年 5月 1日現在

一般社団法人学校心理士認定運営機構
理事長 殿申請者氏名 心理太郎

学校心理学に関する研究業績（著書・学術論文等）一覧を提出します。

著書・学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は 発表の年月	出版社又は発行 雑誌（発行者） 等の名称	概要	領域
(著書) 1. 学校心理学	共著	2011年11月	本郷書房	本郷一郎編著 著者 本郷一郎他7名(総279ページ) 第4章「心理教育的アセスメント」(47ページ-76ページ)を分担執筆。 (説明)本書では心理教育的アセスメントの目的と意義, 子どもについてのアセスメント, 子どもの環境のアセスメント, そして, アセスメントの方法として観察, 面接と遊戯, 心理検査等を取り上げ説明した。また, 仮説の生成や目標の設定, 援助計画の作成について説明した。さらに, 心理教育的アセスメントにおけるインフォームド・コンセントやプライバシー保護についても解説を加えた。	a
2. 教授・学習心理学	単著	2012年10月	本郷書房	心理太郎著 (総208ページ) (説明)本書では教授・学習心理学について, まず基礎分野として学習の連合理論と認知理論, 古典的条件づけとオペラント条件づけ, 短期記憶, 長期記憶, ワーキングメモリ, 知識獲得, 問題解決, 社会的学習, 動機づけを取り上げ解説した。また, 応用分野として, 学習や認知の個人差, 学習面の不適応, 学習援助, 認知カウンセリング等を取り上げ解説した。	b
(学術論文等) 3. 中学生に対する個別の学習援助に関する研究: 学習観と学習動機に着目して	共著	2011年12月	学校心理学研究 (日本学校心理学会)	本郷一郎・心理太郎・学校良子 (説明)中学生1年生30名を対象に, 個別の学習援助を週2日, 3ヶ月間実施し	h

			第 11 卷, pp161 - 170.	た。学習援助実施前と実施後に質問紙による調査を行った結果, 実施前より実施後の方が, 学習動機得点が向上していた。また, 学習観においては解答を出すまでのプロセス重視の得点に向上が認められた。これらの結果に基づき, 個別の学習援助のあり方について考察した。	
10. 小学生に対する学習援助	単著	2012 年 6 月	教育心理学研究 (日本教育心理学会) 第 60 巻, pp155 - 164.	心理太郎 (説明)算数の学習につまずきのある小学6年の児童を対象に, 認知カウンセリングの手法を用いて, 学習面の心理教育的援助を行った。援助は, 内容理解の促進と解き方を覚えておくための学習方略の習得を目標として行った。言語的な説明を求めること, 教訓帰納を毎回重視して援助を行った結果, 正答率は上昇した。このような成果に対して, 学校心理学の視点から考察した。	h

*「学校心理学に関する研究業績一覧」作成上の注意点

- ・フォーマットをダウンロードして, 記入例に倣って作成すること。
- ・著書, 論文は通し番号をつけること。
- ・学術論文については, 著者名のうち申請者名には下線を付すこと。
- ・学術論文については, 発行雑誌名に加え発行者名を明記すること。
- ・概要欄に著書や学術論文等のそれぞれの説明を 150 字から 200 字程度で記入すること。
- ・領域欄には以下の記号を記入すること。
 - a) 学校心理学 b) 教授・学習心理学 c) 発達心理学 d) 臨床心理学 e) 心理教育的アセスメント
 - f) 学校カウンセリング・コンサルテーション g) 特別支援教育 h) 生徒指導・教育相談, キャリア教育
- ・著書は ISBN (国際標準図書番号) があること。
- ・学術論文は, 学会等の機関誌, 大学・研究所等の紀要で ISSN (国際標準逐次刊行物番号) があるものに掲載された論文を対象とする。小学校・中学校・高等学校等の紀要は対象外。
- ・その他, 出版社等が発行している ISSN (国際標準逐次刊行物番号) があるものに掲載された論文を対象とする。
- ・各研究業績については, 表紙・目次・奥付のコピーを添付すること。 (添付できない業績は記載しない。) 申請者氏名の入っている部分のコピーは必須。抜き刷りのコピーは不可。コピーの申請者氏名は赤で囲む。